



大学図書館における 情報リテラシー教育

2009.12.3 (木)

東海地区大学図書館協議会 図書館職員基礎研修

名古屋市立大学総合情報センター川澄分館 久田睦美



本日の内容

- ④ 情報リテラシーとは
- ④ 情報リテラシー概念の変遷
- ④ 高等教育における情報リテラシー教育
- ④ 大学図書館と情報リテラシー教育
- ④ 情報リテラシー教育の実例・動向
- ④ 情報リテラシー教育の実践にあたって
～図書館利用教育ガイドラインー大学図書館版ー～
- ④ 事例報告: 名古屋市立大学総合情報
センター川澄分館の取り組み

2



情報リテラシーとは・・・？

④ リテラシー

- ❏ 識字能力, 読み・書き・計算能力
- ❏ その個人が生活している社会(コミュニティ)によって規程される → 「機能的リテラシー」

④ 情報リテラシー

- ❏ 機能的リテラシーを「情報社会」という枠組み設定のもとにとらえたもの



- ・情報社会において生活していくのに不可欠な知識や技能
- ・さまざまな情報源の中から、必要な情報にアクセスし、その情報を正しく評価し、活用する能力

④ 類縁概念

- ❏ コンピュータ・リテラシー, メディア・リテラシー など

3



情報リテラシー概念の変遷 ①

<概念の誕生>

1974年 Zurkowski, Paul C. (米国情報産業協会会長)
米国図書館情報学委員会の提言

「情報産業の発展にともなう社会的な要請として、
国民が情報リテラシーを獲得することが必要」



④ 1970年代: 情報社会、OA化

- ❏ 産業界からの要請として、情報化にともなう新しい技能、すなわち情報リテラシーの必要性が訴えられた

④ 1980年代: 情報通信技術の進歩

<80年代前半>・・・情報リテラシーという概念が、コンピュータ技能に
偏りながらも具体的に展開

- ❏ 職業場面だけでなく、教育・学習の場面や日常生活の場面でも、問題解決や意思決定の際に、「情報を使う力」が重要という認識が拡大

4



情報リテラシー概念の変遷 ②

<80年代後半>・・・「情報＝コンピュータ」というイメージを崩すような、メディアや情報源の多様化

- ❑ 「情報洪水」「情報爆発」が危惧される一方、「情報格差」が社会的な問題として取り上げられるようになり、情報リテラシーの必要性が認識
- ❑ 図書館・・・利用者教育の面から研究・実践
- ❑ 教育・・・生涯学習社会への機運の高まり
情報リテラシー教育重視

<概念の確立>

1989年 米国図書館協会情報リテラシー諮問委員会 最終報告書



「情報リテラシーとは、情報が必要ときそれを認識する能力、および、必要な情報の発見、評価、利用を効果的に行う能力である。」

5



情報リテラシー概念の変遷 ③

1990年代以降～

- ❑ 情報リテラシーのための「教育」に主たる関心が向けられるようになった
 - ・ 育成のプログラム、カリキュラムの検討、開発
- ❑ リテラシーという大きな枠組みの一部として情報リテラシーをとらえるようになった
 - ・ 社会的、文化的、経済的、政治的文脈によって変容する概念
- ❑ 図書館員が情報リテラシーをめぐる動向の中で自らの役割を積極的に検討するようになった
 - ・ 利用者教育の延長上に位置づけ
 - ・ 図書館・図書館員の果たす機能や役割の検討



6



情報リテラシー概念の変遷 ④

「情報リテラシー」の要素

- ❑ 情報の必要性を認識する
- ❑ 正確で完全な情報が知的意思決定の基礎になることを認識する
- ❑ 情報ニーズに基づいて質問を定式化する
- ❑ 利用可能な情報源を同定する
- ❑ 効果的な探索戦略を立てる
- ❑ コンピュータなどの技術を利用した情報源にアクセスする
- ❑ 情報を評価する
- ❑ 実際の適用のために情報を組織化する
- ❑ 既存の知識体系のなかに新しい情報を統合する
- ❑ 批判的嗜好と問題解決において情報を利用する

ドイル,C「1990年の国家的教育目標の中での情報リテラシー成果の測定」1992年

7



高等教育における情報リテラシー教育

1970年代～「情報教育」への対応

1990年代に入って「情報処理教育」としてコンピュータを軸に展開

- ❑ 初期は「作り手」の視点のプログラミング教育中心
- ❑ 既存のプログラムの利用を中心とする「使い手」の視点へ移行
- ❑ 大学教育においても、一部の学生を対象とした「情報処理教育」が、すべての学生を対象にした「情報リテラシー教育」に拡大

大学審議会答申「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について(2000)

- ❑ 情報リテラシーの向上
「・・・大学教育においては、学生に、グローバルな広がり、主体的に情報を収集し、分析し、判断し、創作し、発信する能力を養うことが不可欠である。その際、情報モラルや、情報機器及び情報通信ネットワークの機能にかかわる基本的知識や能力の習得を重視することが必要である。」

8



大学図書館と情報リテラシー教育①

利用者教育

- ❖ 図書館オリエンテーション
 - ・施設・サービスについての説明
 - ・図書館ツアー
- ❖ 図書館利用指導
 - ・図書館の使い方
- ❖ 文献利用指導
 - ・資料・情報の探索、収集の方法・手順



情報リテラシー教育

図書館利用者だけではなく、
学生全員を対象にしたもの
||
大学全体で取り組む活動



大学図書館と情報リテラシー教育②

大学全体における「情報リテラシー教育」の中に「利用者教育」を位置づけると…

- ❖ 指導内容に「図書館」や「資料」から「情報（インターネットのように必ずしも「図書館」を介さなくても利用できるものを含む）」までが含まれる
- ❖ 情報の「探索・収集」だけに留まらず、「整理・分析」や「表現・発信」までが視野に入れられる
- ❖ 図書館が独自に企画・実施する「講習会」などだけではなく、授業（教員）と「連携」「協働」して実施される場合もある

10



情報リテラシー教育の事例・動向

事例・動向（ほんの一部）

- ❖ 教員+図書館員
 - ・京都大学 “情報探索入門”
 - ・東北大学 “図書館を活用した情報探索・レポート作成術”
 - ・大阪市立大学 “1年生セミナー” 「図書館利用法・情報探索法」
 - ・名古屋大学 “基礎セミナー”
- ❖ 図書館員が非常勤講師兼任
 - ・横浜市立大学 “情報処理活用F1: 情報探索論”
 - ・明治大学 “図書館活用法 I”
- ❖ E-learning
 - ・慶應義塾大学: KITIE
 - ・三重大学: Moodle
 - ・九州大学: WebCT …… など
- ❖ パスファインダー
 - ・愛知淑徳大学・名古屋大学・三重大学・愛知医科大学… など

11



情報リテラシー教育の実践にあたって①

「図書館利用教育ガイドライン—大学図書館版—」
日本図書館協会 1998

I. はじめに

大学図書館の使命は、大学における教育・研究、生活、および地域貢献等の諸活動に対する情報面での支援である。その支援には、資料・情報提供サービスと、図書館利用教育の二本の柱がなければならない。

大学図書館における図書館利用教育とは、自立した情報利用者の育成を目的として大学コミュニティの全構成員を対象に体系的・組織的に行われる情報教育を指す。

12



情報リテラシー教育の実践にあたって②

II. 各図書館で実施すべき項目と手順

－ 大学図書館は以下の10の項目を、総合的に実施しなければならない

- 1. 理念の確認
 - ・ 方針の明文化
 - ・ 大学コミュニティ内への周知・合意
- 2. 組織の確立
 - ・ 事務分掌への明記
 - ・ 部署・責任者の決定
- 3. 現状分析
 - ・ 大学の使命・目的の理解
 - ・ カリキュラムの把握
 - ・ 利用者のセグメント化とそのニーズ
 - ・ 利用者教育の実態分析

13



情報リテラシー教育の実践にあたって③

- 4. 目的・目標の設定
 - ・ 図書館利用教育の目的・目標を次の5つの領域で明文化
 - － 第1領域: 印象づけ
 - － 第2領域: サービス案内
 - － 第3領域: 情報探索法指導
 - － 第4領域: 情報整理法指導
 - － 第5領域: 情報表現法指導
 - ・ 多様な目標の設定(少数のニーズも含める)
- 5. 方法・手順の設定
 - ・ 方法・手順の設定
 - ・ 必要な要員と予算の設定
 - ・ 準備作業の手順・日程・担当者の設定
- 6. 財政の確立
 - ・ 予算の確保 (職員、研修、施設・設備、教材、広報手段)
- 7. 担当者の採用と研修
 - ・ 職員の採用・育成
 - ・ 研修の実施・研修マニュアルの作成

14



情報リテラシー教育の実践にあたって④

- 8. 施設・設備、教材、広報手段の提供
 - ・ 施設・設備の提供
 - ・ 教材の準備
 - ・ 多様な広報手段の提供
 - ・ 実施マニュアルの作成
- 9. 協力体制の確立
 - ・ 大学コミュニティ構成員の参加・協力体制の確立
- 10. 評価の定着化
 - ・ 各プログラムの効果の定期的評価
 - ・ 目的達成度の評価、実績の公表

III. 目標

IV. 方法

15



情報リテラシー教育の実践にあたって⑤

大学図書館にとって情報リテラシー教育は

大学教育の中の「情報教育」を担当

- 計画的・体系的・組織的なサービス
- 教員との連携が不可欠
- 図書館の内外に対して図書館の役割をアピールするもの
 - ・ コア・コンピタンス
 - － コア・コンピタンス: 他社に真似できない核となる能力
(「経営用語の基礎知識」2008)

16



事例報告：名市大川澄分館の取り組み①

授業連携文献検索講習会

- 教員からの要請に応じて、医学・看護文献の検索方法を授業のコマの中で図書館員が担当

- ・ 2005年度の実施回数

看護学部3年生ゼミ	1コマ	2回
// 1年生基礎ゼミ	1コマ	3回

- ・ 2008年度の実施回数

看護学部4年生ゼミ	1コマ	9回
// 1年生基礎ゼミ	1コマ	1回
医学部1年生全員	2コマ	1回

17



事例報告：名市大川澄分館の取り組み②

■ 方法等

- ・ 主に医学・看護文献の探し方をパワーポイントの資料を使って説明
- ・ 例題や課題を準備し、検索等の実習を取り入れながら実施
- ・ 看護学部の場合は、1コマの授業の一部または全部を図書館に一任
- ・ 医学部1年生の場合は、予め教員と打ち合わせをし、2コマの授業を教員と図書館員で分担
- ・ 終了後はアンケートを実施し、集計

■ 増加した要因

- ・ 看護学部教員へのPR(チラシ配布・新任教員ガイダンス)
- ・ 看護学部教員の入れ替わり(他大学での経験・図書館の認識変化等)
- ・ 医学部のカリキュラムに「医学情報処理/図書館実習」が組み込まれた

18



事例報告：名市大川澄分館の取り組み③

- ✦ 知っ得講座・・・情報リテラシーの充実のため、授業の一環で行う文献検索講習に加え、図書館独自に企画・実施する講座を2006年度より開始

■ 知っ得講座2006

- ・ PowerPointを使ってみよう
- ・ 国内文献(医学・看護)を探してみよう
- ・ PubMedを使ってみよう

■ 知っ得講座2007

- ・ 今さら聞けない“YahooとGoogle”
- ・ 知って得する“文献集め”
- ・ 今さら聞けない“PubMedと電子ジャーナル”

19



事例報告：名市大川澄分館の取り組み④

✦ 知っ得講座2008

- ・ 対象を絞り、利用者の希望にあわせた開催日を設定
- ・ 対象を看護師・一般まで拡大

- 第1弾：看護師さん向け「図書館司書と一緒に看護研究をやってみませんか？」
- 第2弾：看護学部教員・院生向け「CINAHL利用講習会」
- 第3弾：学生向け「知っておきたい！文献検索」
- 第4弾：秘書さん向け「知って得する”文献集め”」
- 第5弾：一般向け「医学図書館探検隊」



20



事例報告：名市大川澄分館の取り組み⑤

第1弾：看護師向け

「図書館司書と一緒に看護研究をやってみませんか？」

- 看護研究(グループ研究)のための文献検索支援
- 検索テーマを受講者が申込時に記入し、予め司書が下検索を行なって当日は一緒に話を聞きながら進行
 - ・ キーワードの選択
 - ・ 検索結果の絞り方
 - ・ 文献入手法
 - ・ 必要に応じて、医学中央雑誌等のデータベースの使い方
- 広報・申込受付において病院看護部と連携



- ★ 6グループ15名の受講
- ★ 受講者の反応は個別の丁寧な内容に満足

21

総合情報センター「知」得講座 2008 第1弾〈看護師さん向〉

図書館司書と一緒に

看護研究をやってみませんか？



看護研究をするときに、「文献をどうやってみつけたらよいのか？」

「探した文献をどうやって集めたらよいのか？」でお困りではありませんか？



★ 図書館では、実際にパソコンを使って医学中央雑誌やCINAHLなどで文献を探す方法、

文献を入手する方法をお教えしています。各病棟やお友達で少人数のグループを作ってお申込み下さい。



- ☆☆☆ 申込み方法 ☆☆☆
- ① 同じ研究をされるメンバーで日程調整をした上、右のカレンダーの開催予定日(※印)の中から、ご都合の良い日を選んでください。
※ 平日・土曜日も時間は午後2時～4時を予定しています。
 - ② 研究テーマ・代表者等を看護部事務室へ記入の申込書にご記入の上、看護部事務室に提出してください。
 - ③ 看護部事務室と図書館で調整をして、代表者にご連絡します。

2008年6月～7月開催カレンダー

月	火	水	木	金	土
2	3	4	5	6	7
9	10	11	12	13	14
16	17	18	19	20	21
23	24	25	26	27	28
30	1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12
14	15	16	17	18	19

総合情報センター川澄分館(内線：8030・8825)



事例報告：名市大川澄分館の取り組み⑥

第2弾：看護学部教員・院生向け

「CINAHL利用講習会」

- 予め教員に参加希望を聞き、希望者の参加できる日程を調整
- 院生が参加しやすいように夜間の部も設定し、昼の部と夜の部の2回開催
- 講師はEBSCO社の担当者に依頼
- 広報は館内・看護学部棟へのポスター掲示と看護学部教員へのチラシ配布

- ★ 15:00～と18:00～の2回で18名の参加
- ★ データベースへの理解が深まったという感想



23

総合情報センター「知」得講座 2008 第2弾

看護文献データベース

CINAHL 利用講習会

★ CINAHL の便利な機能・上手な検索方法等を EBSCO 社の

担当者に来ていただき、説明してもらいます。

事前申込は不要です。

当日、会場にお越しください。

と き：8月26日(火)

1 回 15:00～ 2 回 18:00～

ばしょ：看護学部棟 4F 情報処理教室

※ どなたでも参加していただけます！

ふるってご参加ください！

お問合せは、総合情報センター川澄分館(内 8030・8825)まで



事例報告：名市大川澄分館の取り組み⑦

第3弾：学生向け 「知っておきたい！文献検索」

- 2007年度知って得講座「今さら聞けない“PubMedと電子ジャーナル”」は、火曜日～金曜日の各曜日1回ずつ、予め日時を決めて受講者を募る形式で企画したが、学生の動きが把握できず、多くの参加が得られなかった
- 2008年度は、日時を受講者が決めることができる方法で受講者を募集
- 広報は、館内・学部・病院臨床研修センターへのポスター掲示

- ★ 受講者は3グループ9名
- ★ 受講者の反応はよかったが、広報・PRの方法に再考の必要性



25

総合情報センター知って得講座2008 第3弾 <学生さん向け>

知っておきたい！文献検索

PubMed, 医中誌の使い方がわからない

という方に...



文献検索でお困りではありませんか？
ご希望のデータベースの検索方法を個別にお教えします！

..... 申込方法

- * 右のカレンダーの中からご都合の良い日を選び、図書館カウンターにてお申込下さい。
開催時間は午後2時～6時の間でご希望に応じます。
(1時間程度)
それ以外の時間帯をご希望の場合はご相談下さい。
- * なるべくお友達等とグループを作ってお申込下さい。

<2008年11月開催カレンダー>

月	火	水	木	金
	4	5	6	7
10	11	12	13	14
17	18	19	20	21
25	26	27	28	

総合情報センター川澄分館
(内線：8030・8825)

mail:
kawasumi@sec.nagoya-cu.ac.jp



事例報告：名市大川澄分館の取り組み⑧

第4弾：秘書さん向け 「知って得する”文献集め”」

- 秘書さん向けは2007年度から開催
- 教員の依頼する文献を効率よく手配するために、秘書さんに文献の探し方・電子ジャーナルの探し方・文献の申し込み方を知ってもらおうという企画
- 希望日時を調整して、図書館内または各医局を会場にして開催
- 広報は館内・医学部棟へのポスター掲示と各講座へのちらし配布



- ★ 4講座7人の受講 反応は良好

27

総合情報センター知って得講座2008 第4弾

医局秘書さん向け「知って得する”文献集め”」

先生から頼まれた文献を探す際に、どうやったら効率よく集められるかでお困りではありませんか？

昨年に引き続き、医局秘書さん向けに文献の探し方・電子ジャーナルの探し方を教えます！

新人秘書さんは必読ですよ！！

- ★ 開催日・開催時間・開催場所については、できるかぎりご要望に添うようにいたします。
- ★ 希望講座はカウンターまでお申出ください。

総合情報センター川澄分館 (内線：8030・8825)



事例報告：名市大川澄分館の取り組み⑨

第5弾：一般向け 「医学図書館探検隊」



- ❏ 初めての試みとして一般市民の方に、大学医学部・看護学部の図書館にどのような資料があり、医学文献を探すにはどうしたらよいかなどについて理解を深めてもらう企画
- ❏ 館内案内、医学文献の探し方、検索実習、患者情報ライブラリーの見学
- ❏ 広報は館内・病院患者情報ライブラリー・近隣公共図書館へのポスター掲示、ちらし配布、大学HPへの掲載

★ 大々的な広報をしなかったため、参加者は9名と少なめだったが、好評であった

29

医学図書館探検隊の
参加者を募集します！
～大学医学部・看護学部の図書館がどんなところかご案内します～

大学医学部・看護学部の図書館にはどんな本があって、
どんなことが調べられるのかに興味のある方を、
名古屋市立大学総合情報センター川澄分館にご案内します。

日時：11月22日（土）14:00～16:00
場所：名古屋市立大学総合情報センター川澄分館
（地下鉄桜通線「桜山」下車3番出口よりすぐ）
定員：先着15名
申込方法：11月4日（火）より電話にて受付
その他：調べてみたいテーマがあれば
当日お持ちください。

★申込・問い合わせは川澄分館まで
☎(052)853-8030・8825（月～金 9:00～21:00）



事例報告：名市大川澄分館の取り組み⑩

今後の課題

- ❏ 授業連携講座
 - ・学部カリキュラム・教員との調整、連携
- ❏ 知得講座
 - ・病院を含む大学構成員（教員・学生・研修医・研究医・看護師・コメディカルなど）の現状とニーズの把握
 - ・病院臨床研修センター・看護部との連携
 - ・広報方法の検討
 - － 学生一斉メール等の利用など

31



参考文献

- ❏ 野末俊比古.“第4章 大学図書館と情報リテラシー教育”. 変わりゆく大学図書館. 竹内比呂也編. 東京, 勁草書房, 2005, p.43-57.
- ❏ 野末俊比古.“第5章 情報リテラシー”. 情報探索と情報利用. 田村俊作編. 東京, 勁草書房, 2001, p.229-278.
- ❏ 日本図書館協会図書館利用教育委員会. 図書館利用教育ハンドブック: 大学図書館版. 東京, 日本図書館協会, 2003
- ❏ 特集・情報リテラシー. 情報の科学と技術. Vol.59, No.7, 2009
- ❏ 特集・大学図書館と利用教育. 図書館雑誌. Vol.102, No.11, 2008
- ❏ 大城善盛. 大学図書館界を中心とした情報リテラシー論. 大学図書館研究. 82号, 2008, p.23-32.
- ❏ 慈道佐代子. 情報リテラシー教育の理論的枠組みと大学図書館における実践についての考察. 大学図書館研究. 75号, 2005, p.44-53
- ❏ 永田治樹[ほか]. “今後の「大学像」の在り方に関する調査研究(図書館)”. 筑波大学, 2007.(オンライン), <http://www.kc.tsukuba.ac.jp/div-comm/pdf/future-library.pdf>

32